

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を發展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	25
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 2年 7月 4日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 2年 9月26日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	令和 3年 2月 6日 (土)
博士後期課程入学試験	令和 2年 9月26日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	令和 3年 2月 6日 (土)

3) 受験状況等

	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
博士前期課程	10	7	7	5	1.4	4(1)
博士前期課程 (2次)	若干名	3	3	2	1.5	2(1)
博士前期課程助産	5	4	4	3	1.3	3(3)
博士前期課程助産(2次)	若干名	1	1	1	1.0	1(1)
博士後期課程	3	4	4	2	2.0	2(2)
博士後期課程 (2次)	若干名	3	3	2	1.5	2(2)

() の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2. 在学の状況 (令和 3年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	13(12)	13(13)	26(25)

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	3(2)	4(4)	9(9)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和3年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第16期生	7(7)	医療機関、教育機関
博士後期課程第13期生	2(2)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和3年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第16期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	2	3	5(5)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	0	1(1)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	3	3	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第13期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	1	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	1	2(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：今井秀樹教授、亀田教授、紺家教授

事務局：河端教務学生課長、松本専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

所定の年月で大学院を修了できない者（主に博士後期課程）が生じてきている。

また、コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生が出現する可能性がある。

<今年度の目標・年度計画>

1. 本学の新型コロナウイルス感染対策の方針を見据え、安全・安心な学修環境を確保する。
2. 大学院生との懇談会やアンケートを実施して院生の声を聞き、修学支援ならびに学修環境の改善を図り、所定の年月で大学院を修了できるよう指導を充実させる。
3. コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生を把握し必要な支援策を講ずる。
4. 大学院生の確保のために研究コースや助産看護学分野の学内特別選抜等の制度の周知を図り、学部生の大学院進学を複数名確保する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会の活動実績について

- 1) 年度初めに新入生ならびに在学生へのガイダンスを実施した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学に来学できない院生には後日、ガイダンス資料を送付した。また、北陸3県以外から入学する院生には適切な健康観察期間を置いて入構を認めた。
- 2) 4月に院生のオンライン環境を確認し、遠隔学習システムZoomを活用した授業に切りかえられるよう支援を行った。4月の中間報告会を5月に延期して実施した。
- 3) 助産看護学やCNS実習に行く大学院生のために感染対策用の個人防護具を配置できるよう予算獲得を行った。（大学からの特別予算措置、研究科長預り金活用）
- 4) 助産看護学実習において遠隔指導ができるよう、Wi-Fi環境を確保するため10月～1月の期間、予算措置を図った。
- 5) 5月にクラスターの出た施設に応援看護師として派遣した院生の健康管理、保険加入、必要な手続きの支援を行った。また、当該院生のメンタル面のサポートのため、所属分野で体験を語れるよう報告会を行った。
- 6) 院生との懇談会を7月15日博士後期課程中間報告会後に実施した。その内容について研究科委員会で報告し、後期の授業・研究活動に反映した。
- 7) 2月の修論・博論発表会後にアンケート調査を行い、大学院の満足度、要望等について無記名調査し、研究科委員会で報告を行った。概ね満足しているとの回答であったが、ディプロマポリシーに到達していないと回答する院生がおり、今後の課題と捉えた。
- 8) コロナ禍で大学院の研究計画を変更せざるを得ない院生に対して、倫理審査が早急になされるよう倫理委員会に配慮を依頼した。

2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

1) 中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討・審議依頼

令和2年度、博士前期課程の11名の院生の修士論文中間評価委員と7名の院生の論文審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認頂いた。

博士後期課程の5名の院生の博士論文中間評価委員、2名の院生の予備審査委員（案）、本審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認頂いた。

2) 中間報告会（前期・後期）の運営

5月14日に修士論文中間報告会（11名発表、参加者74名）、7月15日に博士後期課程の中間報告会（5名発表、参加者67名）をいずれもオンラインで実施した。

3) 修士論文・博士論文発表会の運営

2月22日に修士論文発表会（7名発表、参加者84名）をオンラインで実施し、研究科委員会にて合否判定を行った。引き続き、博士後期課程の院生2名が博士論文を発表した（参加者76名）。研究科委員会にて審議の結果、学位授与が承認された。修了までの在籍期間は、前期課程は2～3年、後期課程は3年と8年であった。

3. 大学院生の学修環境の改善について

1) 感染拡大に伴い院生室が密になる可能性があり、教育研究棟にWi-Fi設備が整ったサテライト院生室を確保した。院生の多くがオンラインで授業を受け、実際の稼働はほとんど見られなかった。しかし、次年度は大学院修了予定者が多く、論文作成時に院生室の過密になることが予測されるため引き続き確保することとした。

2) 昨年より課題であった院生室の照度に関して衛生委員会の巡視時の内容に加えるよう進言した。今年度は新たな訴えは見られなかった。修士論文作成時期（冬季）に院生室が冷えるため、昨年に引き続き暖房器具を貸与した。

4. 大学院教育懇談会の開催について

大学院の受験生確保および実習場所拡大、修了生の動向把握を目的に実施している「大学院教育懇談会（旧陸3県看護部長懇談会）」の開催は、今年度は中止した。それに代わるアンケートを実施した。北陸3県の55施設に送付し37施設から回答が得られた。大学院進学を後押しする支援策が十分準備できていない、進学したい分野がない、距離が遠いなどの実態が明らかになった。

5. 学部生の大学院進学に関する支援について

1) 2月に学部生向けの大学院説明会を開催した。助産看護学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の紹介も行った。助産看護学分野8名、成人看護学分野1名の進学相談があった。

2) 大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加も促し、ポスターの掲示・配布を実施したところ、大学院進学を考えている者も含めて5名程度の参加が得られた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き新型コロナウイルス感染症対策の充実を図り、研究活動遂行上の課題を明かにし、必要な支援策を講ずる。また、大学院生の感染対策の実践的・指導的能力の向上を図る。さらには大学院教育懇談会のZoom開催や学部生への進学相談会を実施し、院生の確保に努める。

5.4 令和2年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
女性看護学	河合 美佳	尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊産褥婦への保健指導の実態	濱 耕子
子どもと家族の看護学	坂本 洋子	3歳未満児の母親にとっての『通園保育』の良さに関する質的研究	西村真実子
成人看護学	北川 寿子	がん遺伝子パネル検査を受ける患者の意思決定の様相	牧野 智恵
助産看護学	高尾千恵子	父親の育児休業の取得状況による心理的ストレス反応の実態とその関連要因の検討	亀田 幸枝
助産看護学	中梶 杏美	助産師が教育現場で実施している性教育の現状とそれに対する思い	米田 昌代
助産看護学	山崎 愛満	看護職者の妊婦への帝王切開に関する保健相談の必要性の認識と保健相談上の困難に関する研究	濱 耕子
助産看護学	洞庭 真由	女子大学生の月経記録に対する認識と保健行動との関連 一月経予測アプリケーションに着目してー	濱 耕子

5.5 令和2年度 博士論文題目一覧

氏 名	博 士 論 文 題 目	指 導 教 授
加藤 泰子	レビー小体型認知症に現れる認知機能変動のパターンの解明	川島 和代
千原 裕香	改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価 ー親になる前から始める子ども虐待予防支援プログラムの開発ー	西村真実子